

アジア政界人事情報

《ベトナム》

グエン・ヴァン・アン氏が国会議長に就任

ベトナムの第10期第9回国会(5月22日-6月29日)は閉会直前の6月27日、4月の共産党大会でノン・ドゥック・マイン国会議長が党書記長に就任したことを受け、後任の国会議長にグエン・ヴァン・アン共産党組織部長(63)を選出した。

アン新国会議長は、北部ナムディン省出身でマイン氏と同じ旧ソ連留学組。党内では「ドイ・モイ(刷新)」政策推進に理解を示す「改革派」とみなされている。

ギ新文化・情報相とタイ新スポーツ担当相

また、国会は北部ハナム省のファン・クアン・ギ同省党書記を文化・情報相、グエン・ザイン・タイ国家青年・スポーツ・体育委員会副委員長を同委員長(スポーツ担当相)にそれぞれ任命する閣僚人事を承認した。

文化・情報相の前任者であるグエン・コア・ディエム(Nguyen Khoa Diem)氏は、4月の党大会で初めて政治局入りし、6月初旬には党員の思想教育やマスコミ対策などを担当する共産党の思想・文化部長に異動になった。

ハ・クアン・ズ(Ha Quang Du)前スポーツ担当相は、スタジアム建設事業の不正入札疑惑などスポーツ行政に絡む汚職への関与で5月中旬に更迭されている(6月15日号本欄参照)。

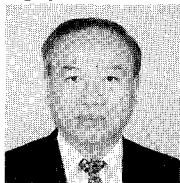
カム、タン両副首相らは留任

一方、4月の党大会で中央委員から外れたために去就が目されていたグエン・マイン・カム(Nguyen Manh Cam)とグエン・コン・タン(Nguyen Cong Tan)両副首相、およびチャン・スアン・ザー(Tran Xuan Gia)計画投資相は今国会での異動はなく、2002年9月の任期切れまで現職に留まるものとみられる。

もうひとつ注目される人事は、6月中旬にマイン書記長の要請でレ・カ・フュー前書記長が軍事担当の書記長顧問への就任を受諾したことである。

■国会議長

Chairman of the National Assembly  
グエン・ヴァン・アン  
Nguyen Van An



地方の共産党委書記から1987年に党組織部副部長(のちに同部長)に就任して以来、一貫して党組織部で党務に専念してきた実力者で、過去の重要人事に強い影響力を発揮してきた。北部出身で旧ソ連に留学した点でノン・ドゥック・マイン書記長と共通している。また、マイン書記長、チャン・ドゥック・ルオン大統領同様、76年に党上級学院を修了した。一般的には党内「改革派」として知られる。

▼データ

【現職】国会議長

【年齢】63歳(1937年10月1日生まれ)

【生地】ナムディン省ナムディン市ミータン

【学歴】

1961: 予備高等教育(-62)

1962: 旧ソビエト連邦に留学(-67)  
(在ソ連ベトナム学生委員会委員)

1974: グエン・アイ・クオック党上級学院で研修(-76)

【経歴】

1976: ナムディン省人民委員会副委員長  
ナムディン市党委員会書記

1980: [11月] ハナムニン省党委員会副書記兼ナムディン省人民委員会委員長  
第7期国会議員(計画・予算委員会委員)

1982: 党中央委員候補(第5回党大会)  
ハナムニン省党委員会書記

1986: [12月] 党中央委員(第6回党大会)

1987: [6月] 党組織部副部長

1996: [6月] 党中央委員に再任  
(第8回党大会)

[7月] 党政治局員党組織部長

1997: 第10期国会議員

2001: [4月] 党中央委員に再任  
(第9回党大会)

党政治局員兼書記局員  
[6月27日] 国会議長に選出  
(第10期第9回国会)

■文化・情報相

Minister of Culture and Information

ファン・クアン・ギ

Pham Quang Nghi

[前職] 北部・ハナム省党書記

■体育・スポーツ委員会委員長(閣僚)

Chairman of the Committee for Sport

and Physical Training

グエン・ザイン・タイ

Nguyen Danh Thai

[前職] 青年・スポーツ・体育委員会副委員長兼第一スポーツ・体育大学学長

[既出データ]

■ノン・ドゥック・マイン書記長

(01/5/15)

■グエン・マイン・カム副首相(99/4/15)

■グエン・コン・タン副首相(99/4/15)

■レ・カ・フュー前書記長(00/1/1・15)

■チャン・ドゥック・ルオン大統領

(01/5/15)

《インドネシア》

経済閣僚人事: 新経済担当調整相にブルハヌディンBI副総裁

ワヒド大統領は6月12日、リザル・ラムリ(Rizal Ramli)調整相(経済担当)を財務相に横滑り(組織上は「降格」)させ、新たにインドネシア銀行(BI: 中央銀行に相当)のブルハヌディン・アブドゥラ副総裁をその後任に起用する人事を発表した。プリヤディ・プラプトスハルジョ(Prijadi Praptosuhardjo)財務相は解任された。また、大統領との政策的な対立でリアス・ラシッド(Ryaas Rasyid)氏が今年1月に辞任して以来空席になっていた行革担当相にアンワル・スプリヤディ運輸次官が就任した。

この経済閣僚の改造人事について、大統領報道官は「メガワティ副大統領とも相談済み」と強調しているが、実際に大統領が副大統領に相談した節はない。大統領宮殿で今回の人事を発表したワヒド大統領に同伴していた最高位の政府関係者は、大佐クラスの大統領副官だけだった。

大統領は、メガワティ副大統領が党首を務める闘争民主党(PDIP)に敵対的なリザル・ラムリ調整相を異動し、プリヤディ財務相を解任したことで、6月初めのアグム・グムラル政治・治安担当調整相の起用人事同様、「PDIPに大きく譲歩した人事」だと考えているらしい(政治・治安担当調整相人事他については2001年6月15日号の本欄参照)。ラムリ前調整相は、PDIP幹部のクウィック・キアンギー元調整相を「追い落とす」形でその後任についた経緯があるからだ。

しかし、スチプト(Soetjipto)PDIP幹事長によると、人事発表の当日にPDIP定例会議に出席していたメガワティ副大統領は人事について高笑いしただけ(副大統領は翌13日に行われた新閣僚の就任式にも出席しなかった)。同幹事長は、今回の人事で8月に予定された国民協議会(MPR)特別総会での大統領弾劾審議が中止になることはありえないとして、この点ではメガワティ党首をはじめPDIP指導部は一致していると語った。

また、戦略国際問題研究センター(CS

I S)のパンデ・ラジャ・シラライ(Pande Raja Silalahi) 研究員(経済)は、インドネシアが現在直面している根本的な問題は政治・治安問題に関係しており、内閣の顔触れではないことを指摘。弾劾間近の大統領が内閣を改造しても、市場がそれを好感することは無理だとして、「大統領が仮に経済チームに『天才』を起用したとしても、何の意味もない」と冷やかに分析している。

■経済担当調整相

Coordinating Minister for the Economy  
ブルハヌディン・アブドゥラ  
Burhanuddin Abdullah



経済担当調整相ポストは経済政策の最高責任者だが、リザル前調整相はインドネシアの経済再建を支援する国際通貨基金(IMF)に批判的だった。同国とIMFとの冷え込んだ関係が、国際社会からの信用を落し、海外からの投資にも悪影響を及ぼしつつあった。ワヒド大統領は、IMF 出向経験がある同(ブルハヌディン)氏の起用でIMFとの関係改善を狙ったと見られる。しかし、「IMFでの勤務経験がある金融テクノクラート」という以外に政界での知名度は低い。

▼データ

【現職】経済担当調整相

【年齢】54歳(1947年7月10日生まれ)

【生地】西ジャワ州ガルト

【学歴】

1974:(バンドン)パジャジャラン大学卒(農学士)

1984:米ミシガン州立大学で経済学修士号取得

【経歴】

1981:インドネシア銀行(BI)入行  
BI金融局および経済統計研究局  
BI総裁補佐官

1989:(米ワシントン D.C.)IMF に出向

1990:IMF Assistant Executive Director

1993:BI 国際経済商業協力部長

1995:BI 海外関係局次長

1996:BI 経済金融政策局次長

1998:BI 海外担当理事

2000:[8月]BI 副総裁

2001:[6月13日]経済担当調整相に就任

【歴任】BI 職員連盟議長

■財務相

Minister of Finance

リザル・ラムリ

Rizal Ramli

経済担当調整相から横滑り。

▼データ

:2000年10月1日号の本欄参照

■行政改革担当国務相

State Minister for Administrative Reforms

アンワル・スプリヤディ

Anwar Suprijadi

前運輸・通信省次官。昨年アグム・グムラル運輸相(当時:現政治・治安担当調整相)の下で航空会社やマルチメディア部門への外資の参入に否定的な政策を発表したことなどで地元マスコミにしばしば登場した。運輸テクノクラートで、政界での経歴はない。アグム調整相の推薦人事か。

[既出データ]

■プリヤディ・ブラプトスハルジョ

前財務相(00/10/1)

■リアス・ラシッド前国家行政改革担当

国務相(00/10/1)

■アグム・グムラル政治・治安担当調整相

(1/6/15)

■クウィック・キアンギー元経済担当

調整相(99/12/1)

《フィリピン》

小規模な内閣改造:新エネルギー相にペレス貿易産業省次官

アロヨ大統領は6月7日、レナト・デビリア(Renato de Villa)官房長官が心臓バイパス手術後に辞任したことを受けて内閣の一部改造を発表した(新閣僚の就任宣誓式は8日)。官房長官の後任にアルベルト・ロムロ(Alberto Romulo)財務相が就任。後任の財務相にはホセ・イシドロ・カマチョ(Jose Isidro Camacho)エネルギー相が横滑りし、新エネルギー相にはビンセント・ペレス貿易産業省次官が起用された。

アロヨ大統領は、電力改革法と補正予算法に署名した直後にこの内閣改造を実施したが、改造にはテクノクラートに経済再建の主導権をとって欲しいとの大統領の意図が反映している。

■エネルギー相

Secretary of Energy

ビンセント・ペレス

Vincent S. Perez



今年3月に貿易産業省次官としてアロヨ政権入りしたが、内閣改造でカマチョ前エネルギー相が財務相に横滑りしたことに伴い、43歳の若さでその後任に起用された。起用は前任者の推薦によるものという。エネルギー相として国营石油公社(PNOC)理事長と国家電力公団(NEA)総裁を兼任する。アロヨ大統領は制定されたばかりの電力改革法の施行に同氏が実務者としての能力を発揮することを特に期待しているようだ。

米国で経営学修士号を取得した後、同国の銀行や金融関連企業で18年以上にわたって長期金融市場での業務に携ってきた金融テクノクラート。南米やアジア諸国などの新興市場での資金調達にも詳しい。政界入り前は、自ら創設したマネジメント会社を通してフィリピンへの外国資本の導入に貢献してきた。

▼データ

【現職】エネルギー長官(大臣)

【年齢】43歳

【学歴】フィリピン大学卒(経営学)

米ペンシルバニア大学(ウォートン・ビジネス・スクール)で経営学修士号取得

【経歴】ニュージャージー・ナショナル・バンク、シティバンク、ファースト・バンクなどでインターンシップ

1983:(米ピッツバーグ)メロン・バンク「南米再建グループ」(-86)

(米ニューヨーク)ラザード・フレアーズ社「新興市場チーム」

同社ジェネラル・パートナー兼ラザード・アジア社長

1996:ネクスト・センチュリー・パートナーズ社創設者・社長

2001:[3月]貿易産業省次官(投資委員会専務理事兼任)

2001:[6月8日]エネルギー相に就任

【横顔】

・ラザード・フレアーズ社における最初のアジア人パートナー。「アウレリオ・ペリケット Jr ビジネス・リーダーシップ賞」受賞。

[既出データ]

■レナト・デビリア前官房長官(01/5/1)

(アジア政治アナリスト 勝田 悟)